

## 2017年以降の幼児1の受け入れに関して

### 問題定義

2014年度に幼児クラスを3クラスずつにすると朝の会で承認され2015年度より3クラス制導入。以来毎年生徒数が増え続け、様々な箇所でも人数過多による問題が出てきてい。運営委員は現状維持で運営体制、行事等を大幅に変更していく方法を取るか、生徒数を抑え行事を出来るだけ変更させずに保持するかの選択を迫られている。保護者の皆様と一緒に考え方向を決めて行きたいと思えます。

次に現在直面している問題と潜在的な問題をあげていきます。

### 現在直面している問題

- 行事：別紙参照
- 教員：各学年ごとのレベルを合わせる必要（教材の共有など）、クラス内の日本語レベル差の拡大
- 役員：
  - a) 年々の生徒数の増加に伴い役員1人に対する生徒対応率が増加している。実際は仕事内容にもよる為1人頭の対応率はこの比ではなく負担が大きくなっている。次頁グラフ「役員一人当たりの生徒数」参照
  - b) 保護者、教員、アシスタントへのお知らせメール件数が増え、無料のセンターアカウントシステムを利用しているが、送受信制限があるため、何度かに分けて送信しないと、エラーで返ってくる。全送信完了するのに3時間かかる。
  - c) 週当番、行事係のアレンジには膨大な時間がかかる。特に週当番は休暇、個人の都合、係のミーティング、行事实行日を考慮して調整する。
  - d) 運営委員の業務が多忙な為不規則且つ例外的な問題への対応から解決までが困難。最低限度の仕事をこなすのに精一杯で問題は常に先送りされる。
  - e) 増加する生徒名簿管理
  - f) 手作業による小切手の確認、入金業務の負担
- 会議：
  - a) 声が聞こえない、日時が合わない等、保護者みんなが参加して課題をじっくり話し合えない
  - b) 保護者総会の人数が多くなる事により、発言する保護者はほぼ決まっており、ほかの保護者の意向が反映されにくい

### 生徒数・教室利用数の変動

#### 現況維持の場合

現在の利用可能教室数は29教室（授業で使用している部屋は現在25教室）。

2016年時点は4教室が余室（会議室、ベビーシッター室、保護者室、1エクストラ）

現在のセンターサイズでは現在の会議室（コピー室）と3階の保護者室兼イベント室は確保すべきと考える。

現状維持状態は各クラス最大生徒数15名

- 幼児クラスはアシスタント1名、幼児1,2は更にボランティア1名
- 13名以上の生徒の居る児童クラスにはアシスタントを入れる

2020年までには4階を借りるかの検討を交渉しなくてはならない。2020年の時点で必要教室数は全27室。

現幼児3（初代3クラス編成）が卒業の年までの9年でセンターが全稼動状態になる。

2025年度で全体生徒数（成人除く）は338名ほど、現時点より100名程の増加の見込み30室利用で、ここからの人数変動はあまり無いと予想する。

## 少人数制クラス導入の場合（最大12名）

保護者からの提案で少人数制をシュミレーションに入れてみた。

また教員からは児童クラスで10名以上だと生徒の日本語レベルの差が激しくなり「国語」の授業をするのが困難になるため、体力的・気力的に継続は困難の可能性があると話を聞いた。

2017年度より全クラス最大生徒数12名

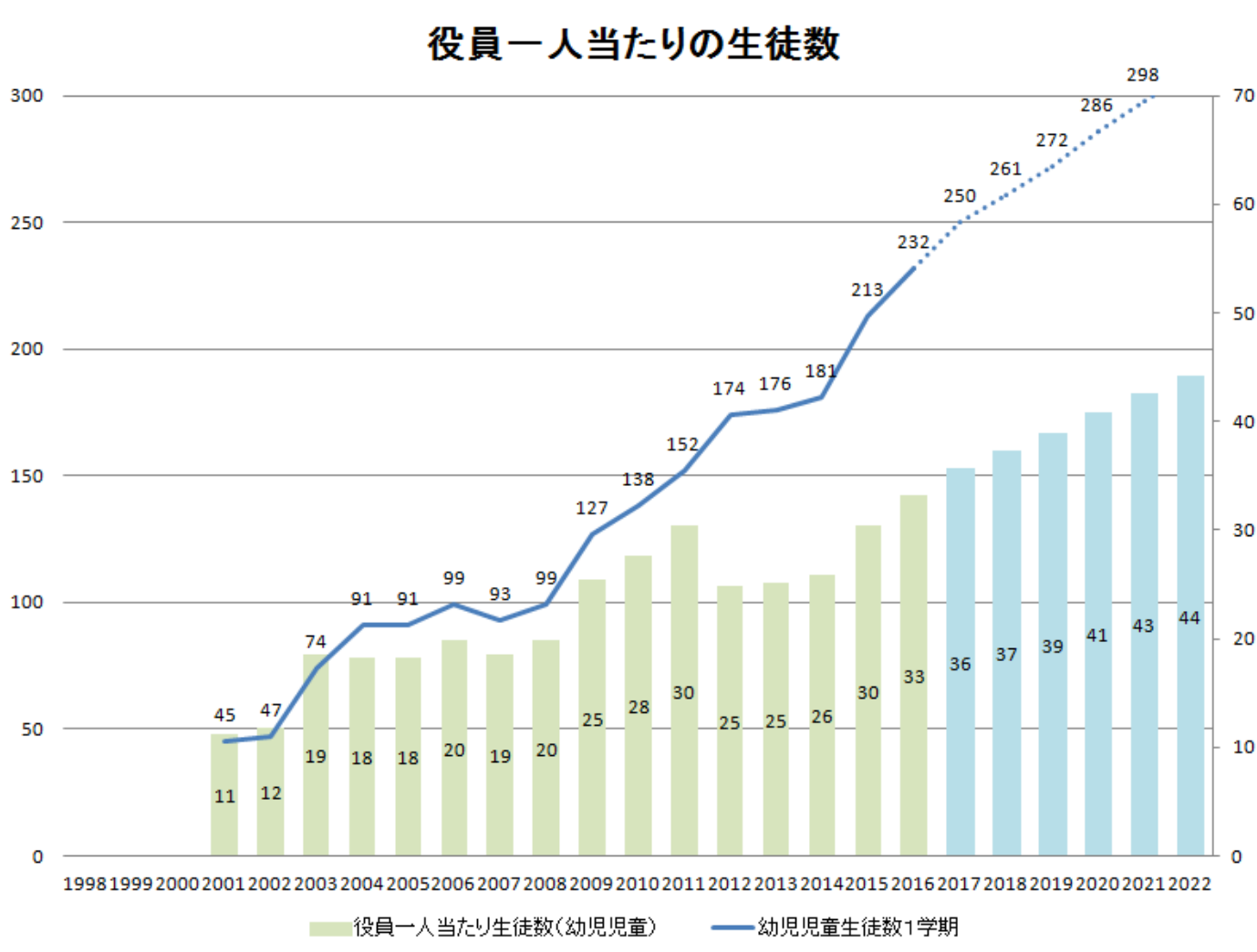
- 幼児クラスは変わらずアシスタント1名、幼児1,2は更にボランティア1名、
- 幼児以外はアシスタントは無し

2年後（2018年度）から5年間教室数が全28室で余室が一つとなりタイトになるが、乗り切ると人数は下降し2025年頃迄には全体生徒数（成人除く）は225名ほど、現時点とほぼ同数 26室利用で落ち着くと予想する。

## 幼児減員（3クラスから2クラスへ）

2017年をピークに利用教室数、全生徒数は下降して行く。収入が減るのは言うまでもないが、教員の解雇も視野に入れることとなる。2025年には全体生徒数（成人除く）は200名ほどで現時点より30人減少（昨年度とほぼ同数）、20室利用までに減る事となる。

## 役員一人当たりの生徒数



## 生徒増加により発生する検討課題

### メリット

- モントリオール地域での増加傾向にある日本人、日系人、日本文化を学びたい生徒を受け入れ、今後のモントリオールの日本文化継承に貢献
- 幼児を通わせることができる学校は当日本語センターのみ。幼児部の需要が多い傾向がみられるので、その需要に答えることができる。
- 生徒数増加に伴い、より多くの賃貸料金を納めている為、賃貸しているカレッジ側に融通をきかせてもらい、以前より多くの設備を利用できるようになった。
- 収入が安定し必要経費に対し各保護者への負担が減る

### デメリット

#### 教員・アシスタントの需要

- クラスの増加に伴い教員が必要となる。また、現状維持編成をした場合は13名を超えるクラスが多くなる為、児童クラスでもアシスタントが必要となる。
- クラス内の生徒数が増えると教員への負担も増える為、長期継続してもらえないケースが増える可能性。（クラス内のレベルの差や保護者の目的意識の差への対応）質の向上やモチベーションをあげる為に働きやすい環境、ベネフィットを考慮すべき。

#### 授業内容希望の多様化

- 保護者増加に伴いセンターへ通う目的の多様化がさらに激しくなる。

#### 運営上の問題

- 現在から更に生徒数が増加すると、現状の1, 5倍近くの仕事量になる。役員の仕事の見直し及びベネフィットの考慮をすべき。

### 課題

- 行事係に関しては調整が必要ではあるが、生徒数が増加しても、打つ手はある。今後の生徒受け入れの参考要素であり、生徒数を増やすなら、優先すべきことは、保護者の意思、教室、教員の確保であると思う。
- 行事対象年齢の指定など行事に関しては再構成が必要
- 運営委員の仕事の見直しや増員の検討
- 幼児・児童で分けて会議を行うなど運営形態の見直し

## 少人数制クラス導入

### メリット

- 現状維持よりセンターの生徒数の絶対数を抑える事ができる。教員数調整もクラス減少案よりは調整しやすい。
- 少人数制だと個人対応がしやすくなり教員への負担を減らす事ができる

### デメリット

- 緩やかに生徒数変化する為、教室数で厳しい時期が数年続く。一時的に定員を超える生徒数でクラス編成をしたら乗り越える事ができると思われる

### 課題

- 教員数調整は最小限で抑えられるが、学年を超えての移動の可能性はある。教員の方々の理解が必須である
- 現状の生徒数をほぼ保つ状態となる為、現時点で問題が起きている箇所ではやはり見直しが必要である

## 新幼児クラス減少案

### メリット

- 人数が減り、教室数不足を心配する必要はない
- 大型行事は引き続きタイトではあるが同じ条件で継続が可能

### デメリット

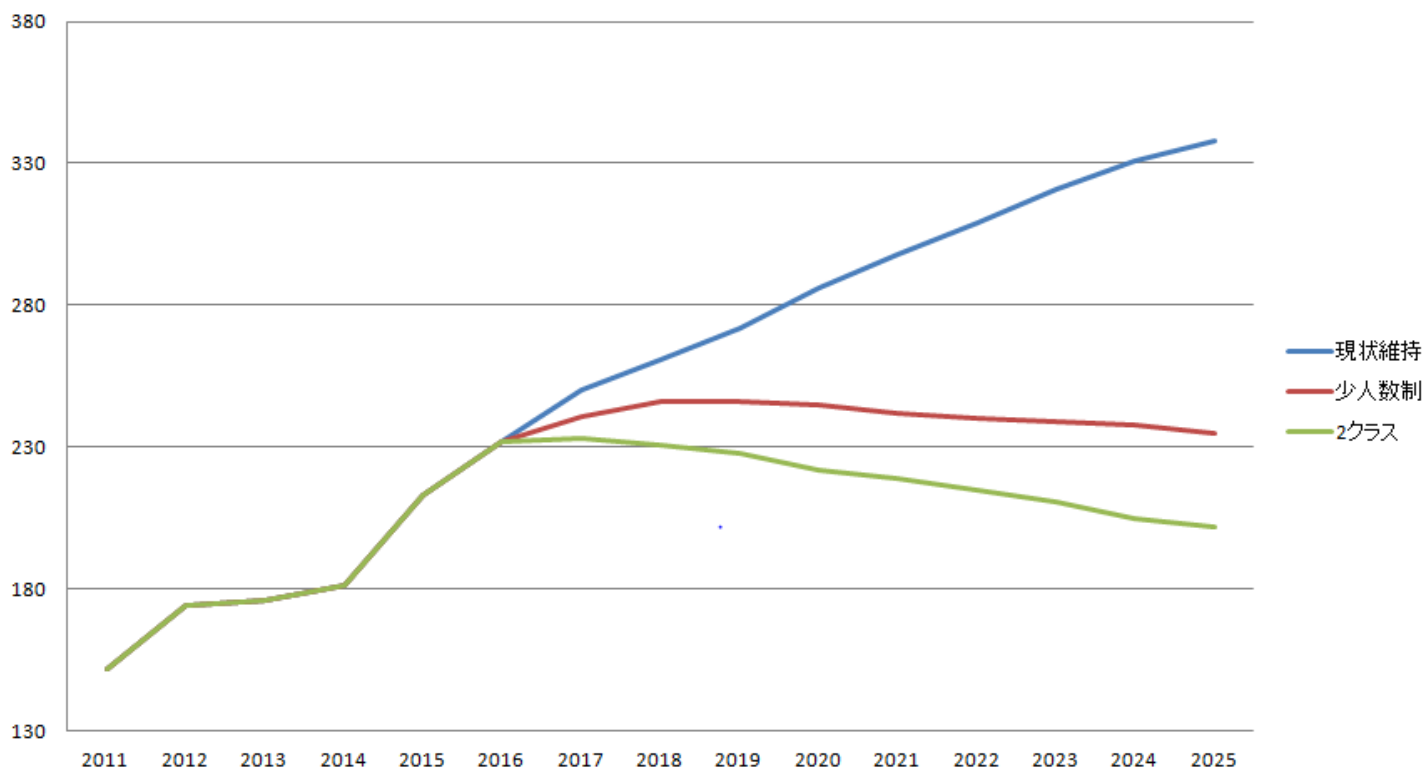
- ウェイティングが増え、運営委員への問い合わせが増える可能性有
- 収益が減り各保護者への負担が増える可能性有
- 教員数調整がやや困難
- 教室が余るため昔の3階と4階に戻す検討も出てくる可能性有

### 課題

- 児童以上は1学年1クラス形態となる為、クラス内に目的の違う生徒が集まることになり、場合によっては教員への負担？
- 授業料など、収入面をどう調整するかなど、会計面での調整が必要

以上センターの進むべき方向はどれだと考えますか？

## 生徒予想数



## モンリオール領事館管轄邦人数増加とセンター生徒数の推移比較

